

科目：国語

分野：漢字

送りがなのつけかた

1 / 3

(三年生)

●はってん学習のテーマ●

送りがなのつけかたをおぼえよう。

言葉を漢字とひらがなで書き表すとき、漢字の下につける「かな」を【送りがな】というのじゃよ。

送りがなは、漢字で書いた語句の読み方をはっきりさせて、読みまちがいのないようにするものなのじゃ。昔は、送りがなのきまりはなかったのじゃが、みんなのお父さんやお母さんが生まれたころに、ちゃんとした送りがなのきまりができたのじゃよ。



◆送りがなのつけかたのきまり

① 言葉の終わりが変化する語(活用する言葉)は、変化する部分から送りがなをつける。

〈送りがなの例〉

食べる ↑赤い字の部分が変わるところ。

食べない・食べれば・食べよう・食べます・食べるとき

書く ↑赤い字の部分が変わるところ

書かない・書いたら・書こう・書きます・書くとき

② 様子を表す言葉で「くしい」で終わる形は、「しい」から送りがなをつける。

〈送りがなの例〉

美しい・楽しい・苦しい

③ ものの名前を表す言葉には送りがなをつけないきまりだが、

送りがながつく特別な場合もある。

後ろ・幸い・災い

④ 送りがなをつけない場合。

光・次・話・組・何

※すべて名詞として使う場合